

暖地に適したなたね新品種 「ななはるか」

九州地域における2012年産なたねの作付面積は283haで、全国の18%を占めています。栄養学的な観点からなたね油には無エルシン酸品種が適していますが、暖地に適した無エルシン酸品種はありませんでした。このため、温暖地向き品種である「ななしきぶ」が暖地においても作付されています。しかし、「ななしきぶ」は成熟期が遅いために、九州南部のような暖地では収穫期が梅雨にあたり、穂発芽による子実品質の低下が生じることが多く、搾油業者にとって深刻な問題となっています。また、降雨による収穫作業の遅れにより、後作との作業競合が発生しています。このため、より成熟期が早い無エルシン酸品種の育成に取り組みました。

《「ななはるか」誕生までの経緯》

早生で多収のエルシン酸含有品種「チサヤなたね」を母親、中生で倒れにくい無エルシン酸系統「盛脂148」を父親として交配を行いました。その後、選抜を重ねて2013年に「ななはるか（東北96号）」を育成しました。

《「ななはるか」の特徴》

「ななはるか」は栽培適地の鹿児島県内において、現在の主力品種である「ななしきぶ」より4日早く成熟期に達します（表1）。草丈は、育成地において「ななしきぶ」より少し低いですが（写真1）、鹿児島県内においてはほぼ同じで

畑作園芸研究領域

川崎光代

KAWASAKI, Mitsuyo



す（表1）。育成地における調査結果から、耐倒伏性は“やや強”、菌核病抵抗性は“やや強”です。

鹿児島県内において、「ななはるか」の子実重は「ななしきぶ」よりやや少ないながら、含油率がやや高く、収油量はやや少ない～同程度です。（表1）。

表1／鹿児島県内における「ななはるか」の栽培特性

試験場所	品種名	成熟期	子実重	ななしきぶ比	含油率	収油量	ななしきぶ比
		(月日)	(kg/a)	(%)	(%)	(kg/a)	(%)
鹿児島県	ななはるか	5.15	36.9	87	42.1	15.5	90
農開総セ	ななしきぶ	5.19	42.2	100	40.7	17.2	100
大隅支場	オオミなたね	5.13	44.5	106	45.3	20.1	117
鹿児島県	ななはるか	5.12	33.3	94	42.8	14.5	99
東串良町	ななしきぶ	5.16	35.4	100	41.1	14.6	100

「ななはるか」は油中にエルシン酸を含まないので食用油に適しています。また、実需者および育成地における食味試験において、圧搾油の食味は「ななしきぶ」より“やや良”と評価されています。

《「ななはるか」への期待》

鹿児島県内において普及面積30haが見込まれています。暖地における子実品質の安定化と作付面積の拡大、および地域産業に貢献する製品開発が期待されます。



ななはるか

ななしきぶ

写真1／「ななはるか」の開花の様子